

# 米国畜産学会(2005 Joint Annual Meeting)での ポスター発表およびジョージア大学見学

大澤 剛 史

連合農学研究科生物生産科学専攻動物生産学講座（博士課程1年）

## 1. 目 的

米国畜産学会へ参加し、「Estimation of genetic parameters for image analysis traits on *M. longissimus dorsi* and *M. trapezius* of carcass cross section in Japanese Black steers（黒毛和種枝肉横断面の胸最長筋および僧帽筋の画像解析形質に関する遺伝的パラメータの推定）」のポスター発表を行う。また、鶴田彰吾氏（ジョージア大学 畜産酪農学科 アシスタント研究専門員）の案内のもとジョージア大学を見学する。

## 2. 期 間

平成17年7月21日～平成17年7月31日

## 3. 場 所

シンシナティコンベンションセンター（シンシナティ、オハイオ州、アメリカ合衆国）およびジョージア大学（アセンズ、ジョージア州、アメリカ合衆国）

## 4. 内 容

### 1) 米国畜産学会（2005 Joint Annual Meeting）

2005年米国畜産学会（2005 Joint Annual Meeting）は、2005年7月24日から7月28日にかけてアメリカ合衆国中西部オハイオ州の南西部シンシナティにあるシンシナティコンベンションセンターで開催された。米国畜産学会は、ASAS（American Society of Animal Science）、ADSA（American Dairy Science Association）およびCSAS（Canadian Society of Animal Science）の合同で行われ、アメリカのみならず多くの国々の研究者が参加し、家畜に関する様々な分野の発表が行われる大規模な学会である。

私は、7月26日(火)に家畜育種学の分野で「Estimation of genetic parameters for image analysis traits on *M. longissimus dorsi* and *M. trapezius* of carcass cross section in Japanese Black steers（黒毛和種枝肉横断面の胸最長筋および僧帽筋の画像解析形質に関する遺伝的パラメータの推定）」という演題でポスター発表を行った。日本における格付基準では、胸最長筋以外の主要な筋肉の詳細

な評価値は存在しない。しかしながら、胸最長筋以外の筋肉も枝肉の価値を左右する要因であると考えられている。そこで牛枝肉横断面撮影装置を使用して撮影された黒毛和種去勢牛の枝肉横断面画像を用い、胸最長筋と僧帽筋を画像解析により詳細に解析し、各筋肉の画像解析形質について遺伝的パラメータを推定することが目的の研究である。画像解析形質による客観的指標による胸最長筋や僧帽筋についての遺伝的パラメータを推定したことは、世界的に報告が少ないため、興味を持ってくれる方が予想より多く驚いた。2時間の間に、7～8人ほどの方から直接質問をしていただき、特に、画像解析の手法などに非常に興味を持っていただいた。最終的に、午後のポスターの片付けまでに、自分が用意した30部の資料は、7、8部ほどまでに減っており、予想以上に関心を頂いた。また、今回の肉用牛における家畜育種の発表内容は、全体的に枝肉形質から成長形質や飼料形質などに関する研究テーマが増えてきている傾向にあり、今後の自分の研究に関する様々な情報や知識を得ることができた。

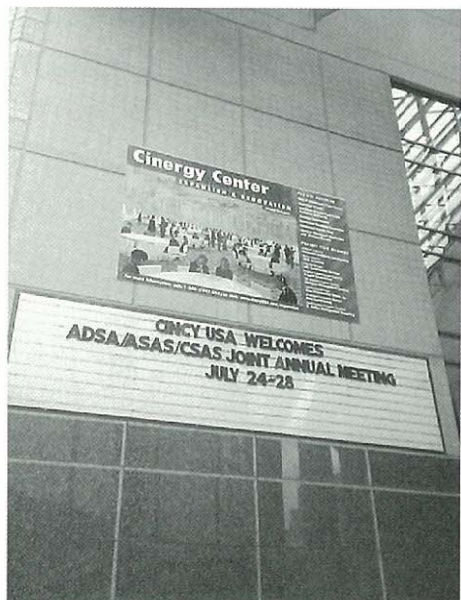


写真1. 学会入り口

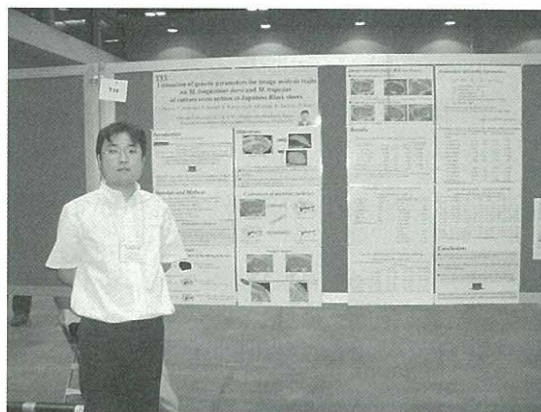


写真2. 発表ポスターの前で



写真3. ポスター発表風景



写真4. 育種学研究室がある建物

## 2) ジョージア大学 (University of Georgia) の見学

ジョージア大学は、アメリカ合衆国南東部のジョージア州の州都アトランタから100kmほど離れた学園都市アセンズに位置する。7月29日(金)にジョージア大学の見学を行った。本学家畜育种学研究室の卒業生であり現在ジョージア大学、畜産酪農学科のアシスタント研究専門員である鶴田彰吾氏の案内のもと、まず学校内を車で見学した。学校内でバスが運行しているほど、ジョージア大学の敷地は想像以上に大きく、大学がそのまま町になっているようなものであった。また、大学の敷地内には様々な施設があり、中でも数万人も収容可能な球場を大学が所有していることは非常に驚いた。最後に鶴田氏の職場である家畜育种学研究室がある建物内に行き、研究室内や使用している機材などを見せて頂いた。研究室に所属する学生は、いろいろな国からの留学生が多く在籍しており国際色豊かな研究室であった。ジョージア大学は、勉学に専念するには非常に恵まれた環境であると感じた。

今回私にとって、今回はじめての海外渡航であり、国際学会に参加するのも初めての機会であったため、非常によい経験になった。ただ、自分の英会話力の低さのため、自分の意見を上手く伝えることも相手の質問内容を理解することにも苦労し、筆談なども交え片言の会話になってしまったことが残念に思う。将来も、このような国際学会に参加する機会があると思われるので、今回得られた経験や知識を今後の研究活動に生かすと同時に英語に関してもよりいっそう勉強していきたいと思う。

最後になりましたが、今回の学会参会・ジョージア大学見学に際しての多大なご支援を頂きました帯広畜産大学後援会に厚くお礼を申し上げます。